

自然災害発生時における業務継続計画

法人名	合同会社多助	種別	訪問介護
代表者	梅田 博行	管理者	梅田 博行
所在地	〒666-0021 兵庫県川西市栄根 2-1-18-3	電話番号	072-774-0717

※本ひな形における各項目は、別途お示しする「介護施設・事業所における自然災害発生時の業務継続ガイドライン」3-2-1～3-2-4に対応しています。6は通所サービス、7は訪問サービス、8は居宅介護支援サービス固有事項となっており、各施設・事業所のサービス類型、特徴等に応じ、適宜改変して活用いただくことを想定しています。

目次

1. 総論	1
1. 基本方針	1
2. 推進体制	1
3. リスクの把握	2
①ハザードマップなどの確認	2
②被災想定	4
4. 優先業務の選定	4
①優先する事業	4
②優先する業務	5
5. 研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し	5
①研修・訓練の実施	5
②BCPの検証・見直し	6

2. 平常時の対応	7
1. 建物・設備の安全対策	7
①人が常駐する場所の耐震措置	7
②設備の耐震措置	7
③水害対策	8
2. 電気が止まった場合の対策	8
3. ガスが止まった場合の対策	9
4. 水道が止まった場合の対策	9
①飲料水	9
②生活用水	9
5. 通信が麻痺した場合の対策	9
6. システムが停止した場合の対策	10
7. 衛生面（トイレ等）の対策	11
①トイレ対策	11
②汚物対策	11
8. 必要品の備蓄	11
9. 資金手当て	12
3. 緊急時の対応	14
1. B C P 発動基準	14
2. 行動基準	14
3. 対応体制	15
4. 対応拠点	15
5. 安否確認	15
①利用者の安否確認	15
②職員の安否確認	15
6. 職員の参集基準	16
7. 施設内外での避難場所・避難方法	17
8. 重要業務の継続	17
9. 職員の管理	17
①休憩・宿泊場所	17
②勤務シフト	18
10. 復旧対応	19
①破損個所の確認	19
②業者連絡先一覧の整備	19
③情報発信（関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応）	19
4. 他施設との連携	19
1. 連携体制の構築	19
①連携先との協議	19
②連携協定書の締結	20
③地域のネットワーク等の構築・参画	21
2. 連携対応	21
①事前準備	21
②入所者・利用者情報の整理	22

③共同訓練	22
5. 地域との連携	23
1. 被災時の職員の派遣	23
2. 福祉避難所の運営	23
①福祉避難所の指定	23
(ア) 福祉避難所開設の事前準備	23
6. 通所サービス固有事項（※特に該当なし。）	24
7. 訪問サービス固有事項	25
8. 居宅介護支援サービス固有事項（※特に該当なし。）	26

1. 総論

1. 基本方針

施設・事業所としての災害対策に関する基本方針を記載する。

① 利用者の安全・生命維持の確保。

利用者ごとのADL次第で生命の維持に直結する日常生活行為がある。災害の状況も鑑みて状況が許せるのであれば職員の意思も含めて災害状況も考慮し安全確保の上でサービスを提供する。

② サービスの継続

利用者の健康・身体・生命を守る機能を維持。そのために職員の被災状況も含めて早急に把握し事業所運営・サービス継続が可能な状態を整える。ただし自らを犠牲にするような行動はさせない。

③ 職員の安全確保・状況確保

職員の生命・生活の状況をいち早く把握し早急に自然災害に対応できる体制を整える。

④ 関係機関への連絡・情報共有

利用者の居宅介護支援事業所や担当CM等、連絡体制を常に最新状態に構築し、災害が起これば早期に連絡・報告・相談を実施し利用者へのサービスの提供等、迅速に対応できる体制を整える。

2. 推進体制

平常時の災害対策の推進体制を記載する。

(記入フォーム例)

	主な役割	部署・役職	氏名	補足
災害状況把握・指示統括	管理者	梅田 博行	宝塚市在住	
職員への指示連絡	管理者			
サービス提供責任者	梅田 博行			
峠 沙貴子	川西市在住			
災害用備品・備蓄対応	管理者			
職員	梅田 博行			
井上 弘美				
真鍋 由香里	宝塚市在住			
川西市在住				
川西市在住				
管理者への状況報告	職員	※全職員対象	職員グループLINE活用	

3. リスクの把握

①ハザードマップなどの確認

施設・事業所が所在するハザードマップ等を掲載する（多い場合は別紙として巻末に添付する）。

https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/kurashi/bosai_bohan_kyukyu/1017400/bosai/bosaimap/index.html

[illegible]

②被災想定

大きな被害が予想される災害について、自治体が公表する被災想定を整理して記載する。

【自治体公表の被災想定】

<項目例>

交通被害

道路：

橋梁：

鉄道：

※川西市公表の交通網の現状一覧

https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/kurashi/bosai_bohan_kyukyu/1017400/1008439/index.html

ライフライン

上水：

下水：

電気：

ガス：

通信：

※川西市公表のライフラインの現状一覧

https://www.city.kawanishi.hyogo.jp/kurashi/bosai_bohan_kyukyu/1017400/1008439/index.html

【自施設で想定される影響】

自治体発表の被災想定から自施設の設備等を勘案のうえ記載する。また、時系列で整理することを推奨する。

<記入フォーム例>

	当日	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目
(電力)		自家発電機	→	復旧	→	→	→	→	→
					→				
電力	建物の管理会社の対応次第			電力の発行元次第（関西電力）					
E V	建物の管理会社の対応次第			EV設置業者の対応次第					
飲料水	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有
生活用水		備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有
備蓄有									
ガス	建物の管理会社の対応次第（建物所有者：カワネンガス）								
携帯電話		備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有	備蓄有
MB有									
メール	事業所内PCと携帯端末の共有化済み。携帯電話さえ動けばメール対応可能								

4. 優先業務の選定

①優先する事業

複数の事業を運営する施設・事業所では、どの事業（入所、通所、訪問等）を優先するか

(どの事業を縮小・休止するか)を法人本部とも連携して決めておく。

＜優先する事業・活動＞

- (1) 事業運営範囲の災害・被災状況の確認 状況把握
- (2) 職員の災害・被災状況の確認。安否確認・稼働確認
- (3) 居宅介護支援事業所の担当CMに連絡・報告し利用者のサービス提供の有無を確認し問題なければ訪問介護サービス提供。

＜当座停止する事業＞

- (1) 訪問介護 ※被災・災害状況次第
- (2)
- (3)

②優先する業務

上記優先する事業のうち、優先する業務を選定する。

(記入フォーム例)

優先業務 必要な職員数

	朝	昼	夕	夜間
与薬介助	5人	5人	5人	5人
排泄介助	5人	5人	5人	5人
食事介助	5人	5人	5人	5人
・・・	人	人	人	人
・・・	人	人	人	人

5.研修・訓練の実施、BCPの検証・見直し

①研修・訓練の実施

訓練実施の方針、頻度、概要等について記載する。

1.2024/3/5（火） 第一回BCP策定について研修・会議・打ち合わせ実施。
2024/3/7：BCP策定（1回目）。次回、半年後2024/9～10ぐらいに再度、研修・会議等の実施予定。

2.基本的には年に1度BCP策定の状況も含めて全職員と研修・会議予定
※ただ状況に応じて臨時での開催等、臨機応変にBCPの改定・掲示

※訓練が一過性で終わらず、継続して実施することを担保する。

②BCPの検証・見直し

評価プロセス（職員全体で協議し、責任者が承認するなど）や定期的に取り組の評価と改善を行うことを記載する。

1.第一回BCP策定会議（出席者等詳細は別紙参照）2024/03/05 10：00～

※次回、半年後2024/9～10ぐらいに再度、研修・会議等の実施予定。

※継続してPDCAサイクルが機能するよう記載する。

2. 平常時の対応

1. 建物・設備の安全対策

①人が常駐する場所の耐震措置

場所	対応策	備考
川西：事務所	耐震基準（鉄筋コンクリート造）	

②設備の耐震措置

対象	対応策	備考
川西：事務所EV	地震等の災害にて緊急停止あり	

※設備等に関しては、定期的な日常点検を実施する。

③水害対策

対象	対応策	備考
川西：事務所	鉄筋造6階建ての4階	地上高さ10m以上

2. 電気が止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と自家発電機もしくは代替策を記載する。

稼働させるべき設備	自家発電機もしくは代替策
川西：事務所・職員	モバイルバッテリー：ノートPCバッテリー

3. ガスが止まった場合の対策

被災時に稼働させるべき設備と代替策を記載する。

稼働させるべき設備	代替策
給湯器・ガスコンロ	R6/3：現状、ガスを使用する予定なし。

4. 水道が止まった場合の対策

被災時に必要となる飲料水および生活水の確保を記載する。

① 飲料水

ペットボトル500ml×20本	1ケース	(7日分×3人)
ペットボトル2000ml×6本	1ケース	(7日分×3人)

＊備蓄の場合は、備蓄の基準（2ℓペットボトル●本（●日分×●人分）などを記載）

② 生活用水

ポリタンク1つ：20ℓ生活用水補充済み

＊貯水槽を活用する場合は容量を記載。ポリタンクを準備する場合は容量と本数を記載。

5. 通信が麻痺した場合の対策

被災時に施設内で実際に使用できる方法(携帯メール)などについて、使用可能台数、バッテリー容量や使用方法等を記載する。

→ 携帯電話／携帯メール／PHS／PCメール／SNS等

① 会社携帯×1台

Tel：080-7362-5926 Yahooメール・Googleメール連携済み グループLINE導入済み

② 代表社員：管理者私用携帯×1

Tel：090-1140-0947 Yahooメール・Googleメール連携済み グループLINE導入済み

③ ノートPC×2台

上記携帯端末とYahooメール・Googleメール連携済み

④ 携帯端末用モバイルバッテリー×1台

⑤ ノートPC用バッテリー×2台

⑥ 会社HP：www/hito-tasuke.com

HP内問い合わせフォームにて連絡可能。

⑦ GoogleDrive・Goglecloudによるファイル等のバックアップ体制構築済み。

6. システムが停止した場合の対策

電力供給停止などによりサーバー等がダウンした場合の対策を記載する（手書きによる事務処理方法など）。

浸水リスクが想定される場合はサーバーの設置場所を検討する。

データ類の喪失に備えて、バックアップ等の方策を記載する。

① 手書きによる事務処理対応

※サーバーはYahoo・Google・LINE等全て海外設置のサーバー

7. 衛生面（トイレ等）の対策

被災時は、汚水・下水が流せなくなる可能性があるため、衛生面に配慮し、トイレ・汚物対策を記載する。

① トイレ対策

【利用者】

- ① 利用者宅のトイレの使用状況に関しては被災・災害状況次第。
- ② 事務所内にて携帯トイレ備蓄。必要に応じて使用
- ③ おむつ・パット備蓄。必要に応じて使用。

※事務所内 ポリタンク20ℓ×1 生活用水備蓄あり。

【職員】

- ① 職員宅のトイレの使用状況に関しては被災・災害状況次第。
- ② 事務所内にて携帯トイレ備蓄。必要に応じて使用
- ③ おむつ・パット備蓄。必要に応じて使用。

※事務所内 ポリタンク20ℓ×1 生活用水備蓄あり。

② 汚物対策

排泄物や使用済みのオムツなどの汚物の処理方法を記載する。

- ① 事務所備蓄内のクレラップ等にて梱包し保管。
- ② 公共事業（ゴミ回収）の再開まで保管。再開時に収集ルールに添って廃棄

8. 必要品の備蓄

被災時に必要な備品はリストに整理し、計画的に備蓄する（多ければ別紙とし添付する）。定期的にリストの見直しを実施する。備蓄品によっては、消費期限があるため、メンテナンス担当者を決め、定期的買い替えるなどのメンテナンスを実施する。

【飲料・食品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
※別紙記載 様式6				梅田・峠

【医薬品・衛生用品・日用品】

品名	数量	消費期限	保管場所	メンテナンス担当
※別紙記載 様式6				梅田・峠

【備品】

品名	数量	保管場所	メンテナンス担当
※別紙記載 様式6			梅田・峠

9. 資金手当て

災害に備えた資金手当て（火災保険など）を記載する。

緊急時に備えた手元資金等（現金）を記載する。

①アクア奨学短期保険株式会社（テナント保険：ビジネスパートナー）

※事務所内の賃貸借契約書・重要事項説明書と共に保険証券同封。

③ 現金 30万円

＊地震保険の保険契約については地域によって制限がある

3. 緊急時の対応

1. BCP発動基準

地震の場合、水害の場合等に分けてBCPを発動する基準を記載する。

【地震による発動基準】

- ① 震度5から被災・災害状況に応じて発動

【水害による発動基準】

- ① 猪名川水位上昇・氾濫等、被災・災害状況に応じて発動
- ② 台風・大雨・大雪等の被災・災害状況に応じて発動

また、管理者が不在の場合の代替者も決めておく。

管理者	代替者①	代替者②
管理者 梅田 博行	サービス提供責任者 峠 沙貴子	事務員兼ヘルパー 真鍋 由香里

2. 行動基準

発災時の個人の行動基準を記載する。

- ① 管理者“梅田”の状況・安否確認のもと、指示は出すが基本的には職員個人の状況判断・同意に委ねる。

3. 対応体制

対応体制や各班の役割を図示する。代替者を含めたメンバーを検討し、記載する。

- ① 別紙、様式1・様式2を参照。

4. 対応拠点

緊急時対応体制の拠点となる候補場所を記載する（安全かつ機能性の高い場所に設置する）。

第1候補場所	第2候補場所	第3候補場所
多助（川西事業所） 川西市栄根2-1-18-3-403	管理者住所 宝塚市売布4-3-5-402	サービス提供責任者住所 川西市けやき坂2-69-17

5. 安否確認

① 利用者の安否確認

震災発生時の利用者の安否確認方法を検討し、整理しておく（別紙で確認シートを作成）。なお、負傷者がいる場合には応急処置を行い、必要な場合は速やかに医療機関へ搬送できるよう方法を記載する。

【安否確認ルール】

- ① 自身では身体生命維持が難しい利用者様
- ② 認知症等、ご自身で状況判断等が難しい利用者様
- ③ 親類・知人等身寄りのない方

【医療機関への搬送方法】

- ① 被災・災害状況に応じて対応。

② 職員の安否確認

地震発生時の職員の安否確認方法を複数検討し準備しておく（別紙で確認シートを作成）。

（例）携帯電話、携帯メール、PCメール、SNS等

【施設・事業所内】

- ① 会社携帯：080-7362-5926
- ② 会社グループLINE
- ③ 代表社員・管理者私用携帯電話：090-1140-0947

【自宅等】

- ① 会社携帯：080-7362-5926
- ② 会社グループLINE
- ③ 代表社員・管理者私用携帯電話：090-1140-0947

6. 職員の参集基準

発災時の職員の参集基準を記載する。なお、自宅が被災した場合など参集しなくてもよい場合についても検討し、記載することが望ましい。

- ① 被災・災害状況に応じてまずは管理者（代表社員）判断。
- ② 個別に安否確認・状況確認を実施し問題なければ多助：川西事業所に参集。
- ③ 管理者のみ他市在住（宝塚市）のため状況によっては管理者のみ宝塚の自宅事務所にて対応（宝塚市売布4-3-5-402）

7. 施設内外での避難場所・避難方法

地震などで一時的に避難する施設内・施設外の場所を記載する。また、津波や水害などにより浸水の危険性がある場合に備えて、垂直避難の方策について検討しておく。

【施設内】

	第1 避難場所	第2 避難場所
避難場所	① 多助事業所 ※川西市栄根2-1-18-3-403	
避難方法	① 被災・災害状況次第	

【施設外】

	第1 避難場所	第2 避難場所
避難場所	① 川西小学校	① アステ市民プラザ
避難方法	① 被災・災害状況次第	① 被災・災害状況次第

8. 重要業務の継続

優先業務の継続方法を記載する（被災想定（ライフラインの有無など）と職員の出勤と合わせて時系列で記載すると整理しやすい）。

- ① 安否確認・状況確認（職員→利用者）
- ② 指定場所への職員参集。今後の事について会議・打ち合わせ。
- ③ 居宅介護支援事業所への連絡・連携
- ④ 訪問介護サービスの継続

9. 職員の管理

① 休憩・宿泊場所

震災発生後、職員が長期間帰宅できない状況も考えられるため、候補場所を検討し、指定しておく。

休憩場所	宿泊場所
多助（川西事業所）	多助（川西事業所）
職員（井上）自宅	職員（井上）自宅

職員（真鍋）自宅	職員（真鍋）自宅
職員（峠）自宅	職員（峠）自宅
職員（梶本）自宅	職員（梶本）自宅

②勤務シフト

震災発生後、職員が長期間帰宅できず、長時間勤務となる可能性がある。参集した職員の人数により、なるべく職員の体調および負担の軽減に配慮して勤務体制を組むよう災害時の勤務シフト原則を検討しておく。

【災害時の勤務シフト原則】

- ① 被災・災害状況に応じて職員と相談の上で検討。
※管理者・サービス提供責任者は極力対応。

10. 復旧対応

①破損個所の確認

復旧作業が円滑に進むように施設の破損個所確認シートを整備し、別紙として添付しておく。

＜建物・設備の被害点検シート例＞

	対象	状況（いずれかに○）	対応事項/特記事項
建物・設備	躯体被害	重大／軽微／問題なし	カワネンガス
	エレベーター	利用可能／利用不可	HITACHI製
	電気	通電 / 不通	関西電力
	水道	利用可能／利用不可	川西市上下水道
	電話	通話可能／通話不可	Jcom
	インターネット	利用可能／利用不可	Jcom
	・・・		
建物・設備			
（フロア単位）	ガラス	破損・飛散／破損なし	カワネンガス
	キャビネット	転倒あり／転倒なし	カワネンガス
	天井	落下あり／被害なし	カワネンガス
	床面	破損あり／被害なし	カワネンガス
	壁面	破損あり／被害なし	カワネンガス
	照明	破損・落下あり／被害なし	カワネンガス
	・・・		

②業者連絡先一覧の整備

円滑に復旧作業を依頼できるよう各種業者連絡先一覧を準備しておく。

業者名	連絡先	業務内容
株式会社カワネン	072-759-4772	マンション管理者
カワネンガス	072-759-4772	ガス
関西電力	0800-777-8810	電気
川西市上下水道	072-740-1262	水道

③情報発信（関係機関、地域、マスコミ等への説明・公表・取材対応）

公表のタイミング、範囲、内容、方法についてあらかじめ方針を定めて記載する。

① 管理者：代表社員の梅田博行が統括し対応。

4. 他施設との連携

1. 連携体制の構築

①連携先との協議

連携先と連携内容を協議中であれば、それら協議内容や今後の計画などを記載する。

① 別紙“様式2”を参照。

②連携協定書の締結

地域との連携に関する協議が整えば、その証として連携協定書を締結し、写しを添付する。

① 特になし。

③地域のネットワーク等の構築・参画

施設・事業所の倒壊や多数の職員の被災等、単独での事業継続が困難な事態を想定して、施設・事業所を取り巻く関係各位と協力関係を日ごろから構築しておく。地域で相互に支援しあうネットワークが構築されている場合はそれらに加入することを検討する。

【連携関係のある施設・法人】

施設・法人名	連絡先	連携内容

【連携関係のある医療機関（協力医療機関等）】

医療機関名	連絡先	連携内容

【連携関係のある社協・行政・自治会等】

名称	連絡先	連携内容

2. 連携対応

①事前準備

連携協定に基づき、被災時に相互に連携し支援しあえるように検討した事項や今後準備すべき事項などを記載する。

① 2024/3/7：BCP策定時点では連携先なし。

②入所者・利用者情報の整理

避難先施設でも適切なケアを受けることができるよう、最低限必要な利用者情報を「利用者カード」などに、あらかじめまとめておく。

② 別紙“様式9”を参照。

③共同訓練

連携先と共同で行う訓練概要について記載する。

① 2024/3/7：BCP策定時点では連携先なし。

5. 地域との連携

1. 被災時の職員の派遣

(災害福祉支援ネットワークへの参画や災害派遣福祉チームへの職員登録)

地域の災害福祉支援ネットワークの協議内容等について確認し、災害派遣福祉チームのチーム員としての登録を検討する。

① 2024/3/7：BCP策定時点では連携先なし。

2. 福祉避難所の運営

①福祉避難所の指定

福祉避難所の指定を受けた場合は、自治体との協定書を添付するとともに、受入可能人数、受入場所、受入期間、受入条件など諸条件を整理して記載する。

社会福祉施設の公共性を鑑みれば、可能な限り福祉避難所の指定を受けることが望ましいが、仮に指定を受けない場合でも被災時に外部から要援護者や近隣住民等の受入の要望に沿うことができるよう上記のとおり諸条件を整理しておく。

① 2024/3/7：BCP策定時点では福祉避難所の指定なし。

(ア)福祉避難所開設の事前準備

福祉避難所として運営できるように事前に必要な物資の確保や施設整備などを進める。

また、受入にあたっては支援人材の確保が重要であり、自施設の職員だけでなく、専門人材の支援が受けられるよう社会福祉協議会などの関係団体や支援団体等と支援体制について協議し、ボランティアの受入方針等について検討しておく。

① 2024/3/7：BCP策定時点では福祉避難所の指定なし。

6.通所サービス固有事項（※特に該当なし。）

【平時からの対応】

【災害が予想される場合の対応】

【災害発生時の対応】

7. 訪問サービス固有事項

【平時からの対応】

- ① 被災・災害時に特別な対応が必要な利用者様の選定と対応法の協議。
- ② 被災・災害時の備蓄品等の補充や装備の検討。

【災害が予想される場合の対応】

- ① 被災・災害時に特別な対応が必要な利用者様の選定と対応法の協議。
- ② 被災・災害時の備蓄品等の補充や装備の検討。

【災害発生時の対応】

- ① 安否確認・状況確認の後、被災・災害状況に応じて時に特別な対応が必要な利用者様の選定と対応法の協議と実施。
- ② 被災・災害時の備蓄品等装備の検討。

8.居宅介護支援サービス固有事項（※特に該当なし。）

【平時からの対応】

【災害が予想される場合の対応】

【災害発生時の対応】